



新緑クラブ
山本 由夫
議員

▼新事業の現状と今後の取り組みについて

◎ 物産流通対策本部の現在までの活動内容と今後の取り組みについて伺いたい。

▲ まず各業界の現状把握と今後の連携推進体制の構築を目的に、二月から五月にかけて、農水産業者、農協、漁協、食品製造業者、観光・飲食業者等との意見交換会を開催し、合計で八十名の方々から意見を伺った。商談については、四月に長崎空港二階の県産品直売所「いけどき屋」と商談会を行い、七社から参加いただき、三社との商談が成立し、既に店頭で販売をされている。物産展については、五月にくまもと百貨店で開催された長崎大物産展に地元五社から出店いただき、ミス島原の参加による報道関係への表敬訪問などを行った。また、六月には農協と連携し、長崎市の浜屋百貨店で小玉スイカを中心に試食販売を行い、長崎駅前かもめ広場で開催された県産品愛用推進イベントにも出店し、地元産品のPRを実施した。今後は、特産物の把握と整理を行い、パンフレットを作成し、多方面へ情報発信することで百貨店やスーパーとの

商談に結びつけていきたい。また、意欲のある事業者と連携し、全国各地で行われる物産展や展示会などへ積極的に出店を行い、新たな販路開拓、拡大に努めていきたい。

◎ すぐやる課の①業務体制、②職務内容、③相談件数、④今後の取り組みについて伺いたい。

▲ ①各種業務に精通した職員歴三十五年以上のOB三名で対応している。②市政についての要望、相談等の緊急処理及び連絡調整に努め、総合窓口的な役割を担っている。③二カ月間で六十九件、前年度比三十二％の増。④幅広い分野で気軽に相談できる体制とPRに努めていく。

◎ 土日の窓口開庁について①業務体制、②来庁者数について伺いたい。

▲ ①本庁の五課と有明支所で、土日の午前中に窓口を開庁している。②四月は延べ三百九十三人で五百三十八件、五月は延べ三百七十四人で五百四十三件の各種申請、届け出の受け付け、証明書の発行を行った。

【その他の質問項目】

- ◇ 行政評価と情報公開について
- ◇ 職員研修と人事交流について
- ◇ 教育関係
- ◇ 島原の湧水、温泉について



真政の会
安藤 幽明
議員

▼行政の市民サービスについて

◎ 各市民団体と行政については、市政発展のためにも行動し、信頼関係が築かれてきたが、ここ数年、会費徴収や補助金等の取り扱いなど、事務局の仕事が市職員から離れてきている。それは行政と市民の信頼関係、サービス面からどうかと思うが、この方針はそのまま継続されるのか。

▲ 市民団体との信頼関係を保つことは大事なことだが、事務局のあり方については、その団体みずから行うのが適当だし、特に、職員の金銭の取り扱いについては、さきの不祥事をふまえ、公金事故再発防止対策に基づき厳格に取り扱っていくべきと考えており、理解をいただきたい。

▼社会教育の現状について

◎ 公民館の民営化は、現在どのような状況なのか。

▲ 昨年八月、各地区公民館で諸団体を集め、指定管理者制度導入に向けた市の考え方を説明したが、各地区住民の意見を集約

すると、現状維持でお願いしたいという意見が多かったようである。そのようなことから、今後、官民協働を推進する立場からも、先進地視察を含め、メリットやデメリット等も検証しながら、島原の実情に照らしながらも、意見交換を行い互いに理解を深めていくべきと考えている。

◎ ①婦人会、②青年団、③老人クラブの会員・団員数や補助金等の過去十年間の推移はどうなっているのか。

▲ ①会員数は十年前が三千六名で、今年六月現在が千四百八十名である。活動補助金は、十年前が島原市と有明婦人会を合わせて百五十万円、今年度の島原市婦人会連絡協議会活動行事補助金は九十八万四千元である。②資料がある八年前が四十三名で、今年度が三十四名である。活動補助金は、十年前が島原市と有明の青年団を合わせて百二万円、今年度の島原市青年団連合会活動行事補助金は二十二万五千円である。③会員数は十年前が四千九百三名で、昨年四月現在が四千二十四名である。活動補助金は、十年前が八百八十九万四千六十円、昨 years が七百六十万三千三百二十八円である。

【その他の質問項目】

- ◇ 学校教育について